



発行日:平成 25 年 4 月 25 日

広報第 6 号

発行責任者

家庭倫理の会山形 会長 日下部 博

“家庭倫理講演会” が開催されました

平成 25 年 4 月 14 日 (日) 午前 10 時から、家庭倫理の会山形主催の「家庭倫理講演会」が開催されました。テーマは『おかあさん』。講師は (社) 倫理研究所 相馬紀子 専任講師をおむかえしました。当日は、山形県内から 252 名が集いました。会場はウエルサンピア山形。

☆体験報告 佐藤幸美さん テーマ「家庭倫理の会に参加して」

私の娘が、大学に入ってまもなく、慣れない生活からか、悩みの電話がくるようになりました。それがいつも涙ながらの内容でしたので、どうしたらいいものか対応に困っていました。自分もいっしょに悩んでいましたが、とりあえず「がんばって」といって電話を切っていました。

そんな中、知り合いから「家庭倫理の会」というがあるので、一度来て見たらと言われていましたが、早朝 5 時の集まりと聞いていたので、とても参加は無理と思っていたのです。でも倫理相談というので悩みを聞いてくれるよというので、思い切って参加する事にしました。

倫理相談士の先生に、彙をもすがら思いで、娘のことについて相談したら、「あなたのそれぞれの親に、これまでのお詫びの手紙を書いてください。」と言われました。「娘の相談をしに来たのにどうして親のことなんだろう。」と思いました。娘との関係を直すのには、自分が変わらなければいけないよということで、そうかもしれないと思い、素直に実践して見ることにしました。自分の親と義理の親に、これまでの至らないところを手紙に書きました。

何度か手紙を書いて、一ヶ月過ぎたころのある日、娘からまた電話がありました。「もうちょっとがんばってみる。」という、いままでにない明るい言葉が返って来ましたので、なんだかほっとしました。

自分が、親に手紙を書いて、素直になった自分を感じ、元気になっていると、娘も気分がいいんだと、親子は繋がっているんだとなんとなく感じました。

娘と私の関係がごちないことに先生は、「幸美さんは、お母さんとうだった。」と聞かれました。実は私が二十歳のとき三度目の家出をしました。(小学校のときから家出をしていたのです。)

父は、大工仕事をして私と弟を育ててくれました。中一のとて、私が弁当を作って学校にもって行っていたのですが、いかにも母親が作ってくれたように振舞って、気を使って周りに気付かれないようにしていました。

ある日の夜、父が泣いているのを見てしまい、辛かったこともありました。親も大変なんだと思いました。がんばっている父を見て、自分はなんともないよと振舞っていました。中二のとて、母が戻ってきたことがありますが、その時も、周りを乱さないよと思い、普通に生活をするようにしていました。でもまた家出してしまいました。



体験報告する佐藤幸美さん



「新世」(日々の暮らしの参考書) 1部 200円
 家庭倫理の会山形事務局が最寄りの会員からお求めください。



ホームページから会の詳細がご覧になれます。携帯からは左の QR コードを読み取ってご覧ください。

家庭倫理の会 山形 ホームページはこちら
<http://yamagata-kateirinri.com>

つらい生活がつづくそんなある時、本屋で目にとまった「やりくり上手の本」という本を買って見ていたら、父が「すまないね。」といました。私は父に、心配させて申し訳ないと感じました。

授業参加にも来てくれない母。恨みました。その時、相馬専任講師から「よくがんばったね。でもあなたが娘さんに遠慮しているのは、親がそうだったからかな」とのこと。娘が母に本音が言えない。本音をぶつけてみたら。本音と言えるような生活をしてみよう。母を恨むのではなく、自分の本音をぶつけてみよう。そして、アルバムの母の写真を見ました。なんだか自分にそっくりで、びっくりしました。写真を見ながら母に話しかけました。いままでの恨みや言いたいこと。

娘には、いつでも帰ってこいといっています。でも、もうちょっとがんばってみると言っています。私が元気なのは、どこかで母が元気にしているからかなって思っています。三人でがんばっていれば、いつか帰ってくる。母が帰ったら「産んでくれてありがとう」と言いたいです。

☆講演 (社)倫理研究所 相馬紀子 専任講師 テーマ「おかあさん」

今日は、おかあさんというテーマで話します。佐藤幸美さんから、前もって今日の体験報告の内容を聞いた時、大勢の前だから言える範囲でいいよと言いました。でも全てを話されました。娘さんとの関わりで悩んでいた佐藤さんと実のお母さんとの関係。弱さを封印して、元気なところを見せていたのかなど。本音を言っているのは、すごいのは、そのまま実践したこと。詰まっていたはそれ以上入らない。吐き出すと水が入ってくる。理屈を言わずやってみる。お母さんの写真を見て全部吐き出した。そして、心から産んでくれてありがとうと言いたい。幸せな人生を送りたいければ、幸せになりたいと願うと思っただけの人生になるということですね。



鶴岡市でのある講演会に参加したときのこと。そこにいた園児が話しかけて来ました。「なぜぞど当てて」。「明治天皇はなにしてる」私は全然わかりません。「目いじってんのう」。大正天皇はなにかついでる。「タイしょってんのう」。無邪気な子供に大笑いしました。「冷蔵庫はなにの花」。「ヒヤシンス」ですって。この子の明るい家庭環境が目につくようでした。

さて、今荒れている青少年も小さい時は無邪気だったのです。今の物質や経済の豊かさの時代に、どれだけ輝いて生きられるか。「家つきカーつきババぬき」親は要らない。祖先との断絶。戦前は「我慢」があたりまえでした。狭いながらも楽しい我が家という大家族で住んでいた時代でした。バナナの美味しさ。白黒テレビがきたとき嬉しかった。おじいちゃん、おばあちゃんとの貧しくても楽しいひと時。絆が強かったんです。家庭の中心にはやさしいお母さんの存在がありました。

「子を持つ親、わが命の親」

56歳の男性。実家が九州。以前は実家に帰るのがうれしかった。でも母が亡くなってからなんだか帰りたくない。だれでも故郷があります。その故郷は「母」。自分の原点はそこにある。一流大学を出て、すぐに家に帰らない夫。一杯飲み屋でエネルギーを溜めてから帰る。飲み屋には美人がいるかと思えば、歳のいったおばさん。会社のウブン、部下への愚痴を聞いてくれる。母の味。そして我が家という戦場へ帰る。孤独には耐えられるが孤立には耐えられない。生まれ育ったところで老いを迎えると、呆けて徘徊する人は少ないそうです。子育てセミナーでの質問に、親のとおりには子が生きます。父や母の言葉に子供が従う。貧しい家で両親は一所懸命だった。母の原点。今の児童福祉施設は、親がいない子供を救う施設から、親の虐待から守るために子供を保護する施設に変わった。母の愛があれば生きていける。20年前亡くなった私の母。交通事故でした。その時は事実を受け入れられなかった。してあげたいことがいっぱいあったのに。毎日涙に暮らしていました。また会いたい。悔いのない別れはないよ。親は子供を許せます。これからは守ってくれます。母が亡くなったショックから立ち直る事は大変でした。自分は病気なんではないだろうか。もう限界。母に会いたい。そんなある夜、母がいた。頭を何度も撫でてもらった。でも夢でした。元気になりました。親は亡くなってまで子供を見てるんだなと思います。人生の中に父の言葉、母の姿があります。深い親の存在。失ってからわかります。やりなおしたい。子供の私に愛を注いでくれた事実があります。今の時代には自分が嫌いな人が多いです。自分自身にやさしく、どんなことがあっても大好きでいてください。自分を受け入れた分、他人を受け入れられる。ありのままの自分。相手の事を理解し、なにかしてあげられるかと考える自分。子供を変えようとしなくて、自分が変わることでよ。

※各セミナーは、一般の方も参加可能です。参加ご希望の方は、家庭倫理の会山形 事務局までお問い合わせください。

家庭倫理の会は、「純粋倫理」を学習する会です。毎朝5時から山形県内各地会場で倫理の勉強会「おはよう倫理塾」を開催しております。ぜひ一度お越しください。

お問合せ先：家庭倫理の会山形 〒990-0834 山形市清住町 2-2-19 コーポトウ 101 TEL.090-2020-7226(くさかべ) E-mail: info@yamagata-kateirinri.com